



## 特集 「ほんなもん体験」の将来を考える

全国の体験型旅行をけん引してきた一般社団法人まつうら党交流公社の「ほんなもん体験」。今月号では、本市の体験型旅行事業の現状と新たな取り組みについて紹介します。

### ■体験型旅行のはじまり

私たちが住んでいるこの北松浦半島地域は、島や半島ならではの变化に富んだ豊かな自然環境があり、多様な形態で農林漁業などが営まれていきます。また、旧松浦市・福島町・鷹島町は新産業創出と交流人口拡大をテーマに平成8年4月、松浦クラスター（ぶどうの房状という意味）を設立し、活動を展開してきました。

松浦市は、このような取り組みを背景として、地域の文化や生活文化そのものを生かしながら、地域経済の活性化と交流人口の拡大を図るため、体験型旅行事業を展開することとなりました。

### ■ほんなもん体験

平成14年から松浦体験型旅行協議会を受け皿として「松浦党の里ほんなもん体験」の取り組みを開始しました。「ほんなもん体験」とは、ありのままの自然や暮らし、

農林漁業を中心とする体験プログラムや農漁村民泊といった「ほんもの」を体験してもらおうことです。現在は、青島、上志佐、田代、星鹿半島、今福、福島、鷹島など、13地区で受け入れを行っています。

「ほんなもん体験」は、日常で体験できないことへの挑戦はもちろん、体験や交流の中で生徒自身の成長につながるのと、全国の学校から高い評価を受けています。



### ■受入れの現状

平成30年には修学旅行生の利用者が30万人を突破したものの、近年の利用者は毎年2万人前後と減少傾向に陥っています。

現在でも、全国の体験型



旅行をリードするまつうら党交流公社には、関東や関西をはじめ、各地から中学生や高校生を中心とする体験型修学旅行の申込みや問合せが多数寄せられています。しかし、高齢化などを理由に、民泊受入れ世帯は年々減少傾向にあるため、民泊受入れ先を確保できず、全国からの申込みを断っている状況にあり、本市を訪れる修学旅行生も減少に転じています。

しかしながら、体験型修学旅行は、本市の交流人口拡大の中心的な役割を担うまでに成長し、将来的にも安定した需要が見込まれており、今後、民泊受入れ家族の安定的な確保が、この事業の発展の力を握っています。



■インバウンド(訪日外国人旅行)の誘客へ

春と秋に集中する修学旅行生の受入れ閑散期を補うため、オールシーズンでの集客が見込まれるインバウンドの誘客に向けた取り組みを進めています。

平成28年から受入れを開始し、香港、台湾、マレーシアをはじめ各国から、これまで千人を超える外国人旅行者を受入れており、地元留学生との交流など民泊の受入れだけではなく、文化交流の場を提供しています。

■家族の一員として

参加者たちは、初対面の家族を前に緊張や不安はあるものの、農漁村の民家にお客さまではなく、家族の一員として宿泊します。

受入れ先の家族の指導のもとで食事作り、風呂や布団の準備も自らで行います。

最初は家族も参加者も戸惑いが多いものの、出発の際には本当の家族のように別れを惜しむ姿が見られます。

参加者から、体験や民泊を通して「見ず知らずの人とでも自分の力で信頼関係を築くことができ、積極的に周囲に働きかけることができるようになった」との手紙が届いています。

このように、民泊の受入れでは、不安や心配の声も聞かれますが、それ以上に刺激や達成感など、新たな喜びを感じることができたと好評を得ています。

○参加者の声(一部抜粋)

普段、当たり前のように言っている「いただきます」の言葉を深く考えたことがなかった。しかし、青島で

夕〆漁を体験して考えが変わった。今まで生きていた命を強制的に終わらせて人間は食べている…ごめんなさい夕〆。生き物の命を頂いて自分たちは生きています」の大切さを知りました。

■さらなる飛躍、成長へ

高齢化や後継者不足など、農漁村を取り巻く環境は依然として厳しいものがあります。しかしながら、「ほんなもん体験」を通して修学旅行生や外国人旅行者が地域に潤いと活力をもたしとれます。

受入家族は、訪れた人たちの喜びに満ちた笑顔から意欲と誇り、さらに地域の発展に貢献できたという達成感を得ることができます。

まつうら党交流公社では、各地区の体験振興会などを通じた民泊受入家族の確保に力を入れていますが、まだまだ安定して受入れできる数には届いていません。

新たな受入家族の誕生と新たな出会いを願いつつ、この先、何年、何十年と続く

受入家族との交流が、ほんなもん体験のさらなる飛躍、成長へとつながるものと期待しています。



○受入家族からのメッセージ(一部紹介)

・民泊を通して、自然の大切さ、命の尊さ、出逢いのすばらしさなど、想い出を胸いっぱい心にのお土産として持ち帰って頂けるよう努めています。

・修学旅行の良き心のアルバムが一枚でも多くなるようお願いながら生徒の受入れを楽しみにしています。

・皆さんから元気をいっぱいもらっています。

・君たちの第二のふるさと、田舎の親戚ですよ！いつでも帰って来てね！

まつうら党交流公社の事務所を移転しました

西九州自動車道建設に伴い、一般社団法人まつうら党交流公社の事務所を下記のとおり移転しました。2月25日から営業しています。

《移転先所在地》

〒859-4778

長崎県松浦市御厨町田代免 601 番地  
(旧田代小学校敷地)

《新電話番号》

0956-41-7171

《新FAX番号》

0956-75-3001

※新事務所は電話・FAX番号も変更となります。

インストラクターや、民泊の受け入れについて興味のある人はお問い合わせください！